

令和6年度（2024年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科（修士課程）入学試験問題
語学（英語）

A：以下の文を読んで設問に答えなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

出典：Trondalen, Gro. 2023. *Ethical Musicality*. London: Routledge, p.1. （一部改変）

- 1) 下線部(1) There may be a friend calling for advice in a difficult situation or when waiting at a bus stop seeing a person losing balance and hitting their head when collapsing を日本語に訳しなさい。
- 2) 下線部(2) fresh produce と同じような意味で用いられている表現を本文中から抜き出しなさい。
- 3) 下線部(3) Ethical queries likewise arise in musical settings, theory-building and research in music について、本文中で取り上げられている例を2つ取り上げながら、説明しなさい。
- 4) 著者は *Ethics* をどのようなものとして考えているのか、本文の内容を踏まえて説明しなさい。

B : 以下の文を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

出典 : Musgrave, George, and Sally Anne Gross. 2020. *Can Music Make You Sick?* London: University of Westminister Press, p. 1.

令和6年度(2024年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験
語学(ドイツ語)

I. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

出典：PETER JURGILEWITSCH WELTWEIT REISEN, Teatro di San Carlo in Neapel (一部改変)
<<https://www.peter-jurgilewitsch.de/teatro-di-san-carlo-in-neapel-italien/>>

問1 下線部①の語順を、下記の意味になるように正しく並べ替えなさい。ただし、文頭に来るべき単語も小文字で示してある。

「ナポリのサン・カルロ劇場は、ヨーロッパで最も重要なオペラハウスに属している。」

問2 下線部②について、ナポリ王カルロ3世がオペラ劇場を建設させた理由は何か。本文に沿って日本語で簡潔に説明しなさい。

問3 (A) ~ (G) に当てはまる単語をそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- A: (ア) Am (イ) Im (ウ) Vom (エ) Während
B: (ア) wie (イ) mehr (ウ) sowohl (エ) nicht
C: (ア) damit (イ) trotzdem (ウ) weil (エ) denn
D: (ア) an (イ) für (ウ) mit (エ) durch
E: (ア) von (イ) unter (ウ) mit (エ) zwischen
F: (ア) dessen (イ) die (ウ) denen (エ) deren
G: (ア) älteste (イ) ältesten (ウ) ältere (エ) älteren

問4 本文の内容に沿っているものには○を、沿っていないものには×をつけなさい。

- (1) ナポリのサン・カルロ劇場は、1379年に建設されたヨーロッパ最古のオペラ劇場である。
- (2) サン・カルロ劇場は1816年に一部焼失したが、同じ年に修復し、再びオープンした。
- (3) 焼失する以前のサン・カルロ劇場は、当時としては世界最大となる3,300もの座席数を誇っていた。
- (4) サン・カルロ劇場は、ミラノのスカラ座をはじめとして、他の多くのオペラ座から影響を受けて建設された、世界でも類のない建築物である。
- (5) サン・カルロ劇場では、オペラだけではなくバレエも古くから上演されてきた。

II. 次の文章を和訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

出典：Susanna Felix, *Clara Schumann-Wieck. Gefeierte Pianistin und Powerfrau.* (一部改変)
<<https://www.br.de/kinder/clara-schumann-wieck-gefeierte-pianistin-und-powerfrau-komponistin-leben-musik-lexikon-100.html>>

令和6年度（2024年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題
語学（フランス語）

I 次の文章の下線部を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

出典

Marcel Proust, « Camille Saint-Saëns, pianiste », *Contre Sainte-Beuve*, édition Pierre Clarac, Gallimard, « Bibliothèque de la Pléiade », 1971, p. 382-383.

II 次の文章の（ 1 ）～（ 5 ）に入れるのもっとも適切なものを、語群の動詞から選んで必要な形にして解答欄に書きなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

adorer

aller

détester

devoir

prendre

répandre

savoir

venir

出典

<https://www.20minutes.fr/loisirs/4058047-20231017-punaise-lit-pouvoir-anesthesiant>

« 20 minutes.fr », le 17 octobre 2023.

III 次の日本語をフランス語に訳しなさい。

- 1) 雨が降ったら出かけないでおこう。
- 2) このケーキの方がそっちよりおいしいよ。
- 3) 彼女が僕に会いに来てくれるのがうれしい。
- 4) 私が電話をかけた女の子はパリに住んでいる。
- 5) 以前はよくそのパン屋に行っていた。

令和6年度（2024年度）

京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題

語学（イタリア語）

I 次の文章を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

[出典: AA.VV. (1975). *Enciclopedia dello Spettacolo*. Torino: Sadea. Vol. VII, p. 1346]

II 次の文章を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

[出典: VERDI Giuseppe (2001) (a cura di OBERDORFER Aldo). *Autobiografia epistolare*. Napoli: Pagano. Vol. I, p. 222]

Ⅲ 次の文書をイタリア語で書きなさい。

1. 音楽の勉強をやめていなかったら、彼は今優秀なピアニストなのに。
2. あちらで食事をしているあの男性は有名な作曲家だ。
3. 君たちは、あの歌手が20才ぐらいだと思っていたの？
4. イタリアに留学していた時、よくオペラ劇場に行っていた。
5. 部屋は広場に面していて、少し騒がしいかもしれません。

次の文は、紫式部(九七三頃～一〇三一頃)が著した『源氏物語』の第三十五帖「若菜下」の一場面で、主人公の光源氏が、ある特定の絃楽器について持論を述べるくだりです。これを読んであとの設問一～五に答えなさい。

よろづのこと、道(みち)くにつけて、習(なら)ひまねばど、才(た)といふ物、いづれも際(きは)なく思(おぼ)えつゝ、わが心(こころ)ちに飽(あ)くべきかぎりなく、習(なら)ひ取らむことは、いと難(かた)けれど、何かは。そのたどり深(ふか)き人の、今の世(いま)に、をさく(な)ければ、片端(かたはし)をなだらかにまねび得たらん人、さる片(かた)かどに、心をやりてもありぬべきを、琴(こと)なむ、猶(なほ)、わづらはしく、手觸(てふ)れにくき物(もの)はあり□。このことは、ま事に、跡(あと)のまゝに尋ねとりたる昔(むかし)の人は、天地(あめつち)を靡(なび)かし、鬼神(おに)の心をやはらげ、よろづの物の、音(ね)のうちにしたがひて、悲(かな)しび深(ふか)き物も、喜(よろこ)びにかはり、賤(いや)しく貧(まつ)しき者も、高(たか)き世(よ)にあらたまり、寶(たから)にあづかり、世(よ)に許(ゆる)さる(と)たぐひ、おほかりけり。この國(くに)に弾(ひ)きつたふる初めつかたまで、深(ふか)く、この事を心得たる人は、多(おほ)くの年(とし)を、知らぬ國(くに)に過(す)りける。(中略)世(よ)の末(すゑ)なればにや、いづこの、そのかみのかた端(はし)にかはあらん。されど、なほ、★かの鬼神(おに)の耳(みみ)といめ、かたぶきそめにける物(もの)なればにや、なまくにまねびて、思ひかなはぬたぐひありける後、★「これ弾ひく人、よからず」とかいふ難むをつけて、うるさきまゝに、今は、をさくつたふる人(ひと)なしとか。いと、口惜くちやせしきにこそあれ。琴きんの音ねを離はなれては、なに事をか、もの調しらべへ知る(し)るべとはせむ。

山岸徳平校注『源氏物語』三(一九六)、日本古典文学大系一六、岩波書店)より。
() つきルビは、出題者による補填。注のほとんどもは出題者による。

注*

【才といふ物ゝ何かは】 意識…才芸というものは、どれでも、学べば学ぶほど、これでよい、というよう
な際限はない気がするもので、自分の気持ちに納得のいくまで習得しようとするのは、とても難しいけれど、
ども、どうしてそれを習得せずにいられようか。

【そのたどり深き人のゝありぬべきを】 意識…(けれども、才芸を習得して) そのように奥義を極める人
など今の世の中にはめつたにいないから、ほんの少し一通り習い覚えるだけで満足するのもよいだろうけ
ども、

【手觸る】 手をつける。手を出す。習得を試みる。

【高き世にあらたまり】 高貴な身分になって

【世に許さる(と)】 世に認められる

【初めつかた】 「初め」+上代の格助詞「つ」+接尾辞「かた」。 初めの頃。

【かみ】 古い時代。昔。

【かの鬼神の耳といめゝ物なればにや】 かの鬼神が、耳をとどめて聴き入ったという楽器だからであろうか
【思ひかなはぬたぐひありける後】 望みを遂げられず、かえって不幸になる奴等がいたものだから、それから
というもの、

【これ弾く人、よからず】 この楽器を弾くと禍がふりかかる

問一 光源氏は、何という楽器について語っていますか。A～Eから一つ選びなさい。

- A 箏そう B 箜篌くわう
D 琵琶びわ E 琴こと（絃楽器全般、もしくは不特定の絃楽器）
C 琴きん（七絃琴しちげんきん）

問二 傍線部①、文末の□に入る助動詞「けり」の活用形をA～Dから選びなさい。

- A 上代のみ用いられた未然形「けら」 B 終止形「けり」
C 連体形「ける」 D 已然形「けれ」

問三 傍線部①を現代の日本語に訳しなさい。

問四 その楽器の古式の奏法を正しく習得することで得ることができた超人的能力や福德とは、どのようなことか、簡潔に説明しなさい。

※「その楽器」とは、あなたが問一で選択した楽器です。

問五 次のA～Eのうち、このくだりで光源氏が語っている内容と矛盾するものはどれですか。すべて選びなさい。

※「その楽器」とは、あなたが問一で選択した楽器です。

- A 唐土たうどや高麗こまでは、いまだにその楽器の奏法が正しく伝わっているのに、日本では、すでにその楽器の奏法の伝承はほとんど廃れてしまった。
B 日本においてその楽器の演奏の伝承がうまく続かなかった原因の一つは、その楽器の演奏を極めることが日本人には極めて難しかったことだ。
C 日本においてその楽器の演奏の伝承がうまく続かなかった原因の一つは、日本にその楽器の奏法が伝わった当初、それを習得するために外国に留学した人がごく少数であったことだ。
D 「その楽器を弾くと禍がふりかかる」といわれるようになったことと、その楽器を弾く人がほとんどいなくなってしまうこととの因果関係はない。
E その楽器の音は、ほかのすべての楽器の音律の基準であるから、その楽器の演奏伝承が廃れると、いずれ他の楽器の演奏伝承も廃れるだろう。